

園 評 価

【評価方法】 A 十分できている B できている C 努力が必要

第1章 総則

	内容	評価
1	保育所保育指針は厚生労働省大臣告示であり、法令として守るべき最低基準であることを理解していますか	A
2	保育所保育指針の基本原則を踏まえ、保育所の実績に応じ、創意工夫を図り、保育所の質の向上に努めなければならないことを理解していますか	A
3	必要な法令に関して理解していますか	B
4	入所児の最善の利益を考慮し、最もふさわしい生活の場になるよう、保育士の専門性を生かし、子どもの状況を踏まえ、養護及び教育を一体的に行っていますか	B
5	家庭や地域との連携を図りながら、専門的知識、技術及び判断をもって保育し、保護者へも保育の指導を行っていますか	B
6	子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、保育所保育指針「保育の目標」「保育の方法」「保育の環境」に留意し保育を行っていますか	B
7	子どもの人権に十分考慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育を行っていますか	A
8	個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、その解決を図るよう努めていますか	A
9	苦情処理では、自己判断で回答せず責任者への報告をし、解決のための話し合いができていますか	A
10	自園の保育理念・保育目標を十分理解し、全体計画を立てていますか	B

養護に関する基本的事項

1	分かりやすい温かな言葉で、子ども一人一人におだやかに話しかけていますか	A
2	子どもの発達過程を理解し、一人ひとりの発達に合わせ援助していくことの重要性を理解していますか	A
3	保護者との連絡を密接に取り、子どもの心身の発達について共通理解をしていますか	A
4	子どもの基本的な欲求を受け止め、いつでもやさしく対応できるように努めています	B
5	一人ひとりとコミュニケーションを取り、信頼関係を築くとともに、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取るようにしていますか	A

保育の計画及び評価

1	指導計画を園の保育方針や保育計画に基づいて作成していますか	B
2	指導計画は保育所保育指針を参考にして作成していますか	B
3	指導計画を作成する際に、一人ひとりの子どもの発達状況に配慮していますか	B
4	保育計画を養護と教育（5領域）の両面を考慮して作成していますか	B
5	自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解していますか	B
6	指導計画を子どもの発達の姿、興味・関心に基づいて見直し、次の計画作成に生かしていますか	B
7	研修会等への積極的、計画的参加をする中で、新たな課題と情報の収集ができていますか	A
8	専門的、客観的な立場からの評価を受け入れ、自主的に自己評価に取り組み、新たな課題に気づき、保育の質の向上のための課題に対応することができていますか	B

第2章 保育の内容

	内容	評価
1	子どもが自ら体を十分に動かして遊べるように工夫していますか	A
2	順番を守るなど、子どもが社会的（きまり）を身につけるような機会を大切にしていますか	A
3	人の立場を考えながら行動することの大切さについて、ていねいに伝えていきますか	A
4	身近に住んでいる人と関わる楽しさや大切さを味わうことができるよう配慮していますか	B
5	子どもが身近な動植物に親しみ、感謝の気持ちや生命尊重の心を育てることができていますか	B
6	保育の中で手伝いをするなど、人の役に立つ体験ができるような機会を積極的に取り入れていますか	A
7	紙芝居や絵本の読み聞かせのときは、その文の美しさや言葉のリズムの面白さを大切にしていますか	A
8	子どもの言葉の発達の過程を、専門的な目で詳細に観察していますか	B
9	言葉、絵、造形、音など、子どもが最も得意な方法で、見たもの感じたものを表現することを大切にしていますか	B
10	子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行っていますか	B
11	子どもが日々を過ごすための安全な環境や、適切な衛生状態を作ることができていますか	B
12	生活に必要な基本的習慣や態度を身につけさせ、適切な援助を行っていますか	B
13	食事、排泄、睡眠、休息を満たすことができますか	A
14	様々な人の存在に気づき、自己を十分に発揮し、他者と協調して生活することの楽しさを伝えることができますか	B
15	伝統的な年中行事等を保育に取り入れ、季節により自然や人の生活に変化のあることを知らせることができますか	B
16	音楽に親しみ、歌ったり踊ったり楽器を弾いたりして、楽しさを味わう機会を作ったりしていますか	A

第3章 健康及び安全

	内容	評価
1	登園時に、一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、それをその日の保育に生かしていますか	A
2	感染症が発生したとき、マニュアルに基づいて対応していますか	A
3	子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要な対応ができますか	B
4	子どもが心地よく過ごすことができるよう、換気や温度・湿度に配慮していますか	A
5	火災・地震・不審者侵入等の危機管理ができていますか	B

第4章 子育て支援

	内容	評価
1	保護者が育児の悩みや心配事を安心して話せる存在になるように、心がけていますか	A
2	早番や遅番での保護者からの伝達事項などを確実に担任に伝えたり、職員会議等で各クラスの状況報告を聞いたりして、把握していますか	A
3	保護者の人権・プライバシー守秘義務について理解していますか	A
4	不自然な表情や傷、衣服の汚れなどに気づき、虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めていますか	B
5	虐待を受けていると疑われる子どもについての情報を得たときには、速やかに園長に報告する園の体制を理解していますか	A

第5章 職員の資質向上

	内容	評価
1	園の保育理念や基本方針を日々の保育活動に生かしていますか	B
2	児童福祉法などの関連法規を読み直すなどして、職務について理解を深めるよう努めていますか	B
3	自己点検・自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的に持っていますか	A
4	自分の保育についての課題を具体的に見つけようと努めていますか	B
5	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところを知っていますか	B
6	子どもの送迎時や行事など様々な機会を通し、子どもの様子や保育の意図を説明し、保護者との相互理解を図っていますか	B
7	指導計画を基に日々の乳幼児の状況に沿った保育をするなど、自ら進んで勤務を完全遂行する積極的な姿勢がありますか	B
8	他の保育士等とのコミュニケーションを密にし、自分の担当以外の業務にも進んで取り組むことができますか	B
9	人間として資質を磨くよう努力したり、保育士としての基本である研修に取り組んだりなど、自己研鑽を積むことができますか	B
10	園の方針、活動の目的、または問題意識の共有などを職員間で共通理解し協力していますか	A
11	研修会などに参加したり、保育雑誌やマスメディア等の情報から、福祉サービスの変化に注意をはらったりしていますか	B
12	園の備品を、責任を持って管理していますか	B
13	施設・設備の安全に関する点検を、確実にを行っていますか	B
14	衛生管理に関する点検を、確実にを行っていますか	B
15	実習生やボランティアなどを受け入れるときは、その意義や方針を理解・確認していますか	A

○評価に対する振り返りと今後の取り組み

・「第1章 総則」の項目1・2については、毎月の職員会議後に保育所保育指針の読み合わせを実施したことが、保育指針の基本原則を踏まえ、創意工夫を図り、保育所の質の向上に努めることへの理解に繋がったようだ。今後も園全体で定期的な読み直しを継続していきたい。

「保育の計画及び評価」の項目5では、保育実践の振り返りと評価による専門性の向上や改善が十分ではないとの評価となったが、毎日の保育計画の振り返りと週ごとの自己評価の記録、月計画の自己評価と記録、職員会議での振り返り、年間指導計画の期ごとの自己評価と記録、園内研修での見直しなど振り返り評価はできていると思う。ただ、より良い評価の方法や記録の記入、会議の持ち方、改善点を保育実践に活かす計画については更なる充実を図っていきたい。

・「第2章 保育の内容」の項目11については、子どもが日々過ごすための安全な環境設定には、危険行動の予測が必要である。そのため日常の「ヒヤリ」とした行動を見逃さず、ヒヤリハットを活用した改善や怪我報告を読み返すなどし、安全な環境を整え事故防止に努めていきたい。

・「第5章 職員の資質向上」の項目2についても児童福祉法などの関連法規を園内研修で取り入れ、理解を図ったことで、職務について理解を深めようとの意識が高まったようだ。今後も一人ひとりの職員が、必要な法令に関して理解を深められるよう努めると共に定期的な読み直しや研修を実施していきたい。

項目10については、園の方針、活動の目的の共有化を図ったことで、日々の保育のねらいが明確化され、保護者の方にもおたよりを通してわかりやすい発信に努めたこと、紙面ではなく園アプリでの配信や目に入りやすい場所へ掲示したことが、保護者アンケートの「保育の理念や方針について、園から説明がありましたか」「園内での感染症が発生した際には、その状況について必要に応じて貼り紙や連絡等がありますか」「献立表やサンプル展示などで、毎日の給食がわかるようになっていきますか」の項目が100%の評価に繋がったと思う。今後も保育の「可視化・言語化」に努めていきたい。